

現代民俗学会二〇一三年度年次大会シンポジウム



シンポジウムの趣旨

これまで民俗学における食文化の研究は、農山漁村に伝えられてきた食の素材や調理の仕方、儀礼食などの研究が中心であった。市町村史に報告されている食習調査や農文協から出版された『日本の食生活全集』などはその代表例である。また、戦後の生活改善運動における食事指導や共同炊事などによる食生活の変化に注目する研究が進められてきた。近年では、郷土食あるいは家庭の味に関する批判的研究もみられる。とはいえ、儀礼食や農村の食生活の変化に関する研究が主流であり、高度経済成長期の日常食や都市部における食生活の実態についてはほとんど調査、研究がなされてなかった。現在の大多数の人々の「日常」に民俗学は無関心だったかのである。

高度経済成長期は、経済成長もそうであるが家電製品の生活への浸透、生活様式の洋風化が進んだ時期である。かつて民俗調査の主たる研究対象であった民具ではなく家電製品が生活の中心となっていく時期である。生活の変化に関して、民俗学では生活改善普及事業に着目する研究があるが、家電製品の普及や生活様式の洋風化は、生活改善運動の結果というよりも、NHK「きょうの料理」に代表される料理番組や各種婦人雑誌のレシピ・料理本というメディア、それらに加えテレビドラマなどを通じて洋風料理や家電製品に囲まれる生活への生活者の憧れ・欲望からの影響の方が大きかったのではないかと推測される。

本シンポジウムにおいては、高度経済成長期における食生活の変貌について、食物の冷蔵保存を可能にした電気冷蔵庫の普及の特徴と食生活の変化、および女性と食の関わり方の変化などについて考えていくことを目的とする。そして、食生活研究における民俗学的アプローチの有効性と課題についてあらためて考えてみることにしたい。

高度経済成長期における食生活の変貌

発表者

表 真美 (京都女子大学)
「食生活と家族だんらん」

西野 肇 (静岡大学)
「家電製品の普及と生活変化」

村瀬 敬子 (仏教大学)
「料理とメディア」

コーディネーター

宮内貴久 (お茶の水女子大学)

関沢まゆみ (国立歴史民俗博物館)

2013年5月11日(土)

13:30 ~ 17:00

お茶の水女子大学本館 306 教室



表真美（京都女子大学・家政学）

『食卓と家族 食卓での家族団らんの歴史的変遷』世界思想社 2010 年
「家事科・家庭科における間食に関する教育の変遷—ジェンダーの視点から—」『京都女子大学発達教育学部紀要 大学・研究所紀要』8, 1-10 2012 年
「戦前期の『主婦之友』にみる性別選好」『家政学原論研究』45, 9-19 2011 年
「ひとり親家族の家庭教育と子育て」『京都女子大学発達教育学部紀要 大学・研究所紀要』7, 1-8 2011 年

西野肇（静岡大学・経済史）

『シリーズ 戦後日本社会の歴史』全4巻 岩波書店 2012～13年 編集協力
「復興期における電機工業の設備投資復興期における電機工業の設備投資」『静岡大学経済研究』10(4) 2006 年
「家電産業における大量生産体制の形成(1): 日立製作所栃木工場の電気冷蔵庫生産を対象に」『静岡大学経済研究』10(3) 2005 年
「占領期日本の家電産業: 電気冷蔵庫を中心に」『歴史と経済』46(1) 2003 年
「戦前期日本の家電産業 -- 電気冷蔵庫を中心に」『東京大学経済学研究』(44) 2002 年

村瀬敬子（仏教大学・歴史社会学）

『冷たいおいしさの誕生—日本冷蔵庫 100 年』論創社 2005 年
「ラジオの料理放送にみる「主婦」の統合と分断—1930 年代を中心として—」『社会学部論集』第 51 号 佛教大学社会学部 2010 年
「「きょうの料理」にみる「伝統」の創造—テレビとジェンダーの社会学—」高井昌吏・谷本奈穂編『メディア文化を社会学する—歴史・ジェンダー・ナショナリティ—』世界思想社 2009 年
「「家庭電化」のディスプレイ—大正から昭和初期における電気の博覧会を中心に—」福間良明他編『博覧の世紀—消費／ナショナリティ／メディア—』梓出版社 2009 年